

製品安全データシート (MSDS)

1. 化学品及び会社情報

会社名 : 株式会社カセイ技研
 住所 : 岡崎市上青野町八ツ田85-3
 担当者 : 菊田泰正
 電話番号 : 0564-43-5044
 整理番号 :
 FAX番号 : 0564-43-5046
 作成・改訂 : 2012年 9月13日

製品名 (化学名・商品名) : **HTC TYPE-S**
 用 途 : 洗浄剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	可燃性/引火性エアゾール	区分1
	引火性液体	分類対象外
健康に対する有害性:	急性毒性 (経口)	区分外
	急性毒性 (経皮)	区分外
	急性毒性 (吸入・気体)	分類対象外
	急性毒性 (吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入・粉塵/ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分3
	標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性:	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
 軽度の皮膚刺激
 眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ、または、
 眠気やめまいのおそれ
 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

【安全対策】

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
 加圧容器: 使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
 ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 取扱い後は手および眼をよく洗うこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用
 して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 無理に吐かせないこと。
 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。
日光から遮断し、50℃以上の温度に暴露しないこと。

【廃棄】

内容物・容器を国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：炭化水素溶剤、LPG

成分及び含有量	成分	含有量	CAS No.	官報公示整理番号
炭化水素溶剤		55～60%	64742-48-9	なし
			64742-47-8	なし
LPG		40～45%	68476-85-7	9-1697

国連分類及び国連番号： 国連番号： 1950 国連分類： 2.1

労働安全衛生法

名称等を表示すべき有害物

(施行令第18条)：非該当

名称等を通知すべき有害物

(法第57条の2、施行

令第18条の2別表第9)：政令番号 第432号 ノナン(炭化水素溶剤に含有)

政令番号 第482号 ブタン(LPGに含有)

有機溶剤中毒予防規則：非該当

PRT法：非該当

4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：水と石鹼で付着した部分を洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：無理に吐かせないで直ちに、医師の手当てを受ける。
口の中が汚染されている場合には、水で充分洗うこと。

予想される急性症状並びに

最も重要な徴候及び症状：
・飲み込むと、下痢・嘔吐する可能性がある。
・目に入ると炎症を起こす可能性がある。
・皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
・蒸気およびミストを吸入すると気分が悪くなることがある。

応急処置をする者の保護：救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用すること。

医師に対する特別注意事項：現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤：霧状の強化液、泡、粉末または炭酸ガス消火器が有効である。
初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤：棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性：極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で発火する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法：火元への燃焼源を絶つ。
周囲の設備などに散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行なう者の保護：消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項：河川、下水道等に排出されないように注意する。

海上の場合、薬剤を用いる場合には、国交省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

回収、中和並びに封じ込め

及び浄化の方法、機材：全ての着火源を速やかに取り除き漏えい個所の漏れを止める。

危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の出入りを禁止する。

少量の場合は、土砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収し、その後完全に拭き取る。

大量の場合は、盛り土で囲い流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

二次災害の防止策： 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火用機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策：『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気、全体排気：『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項： 周辺での高温物、スパーク、火気の使用をしないこと。

静電気対策を行い、作業着、靴なども導電性の物を使用する。

容器を転倒、落下させるなど衝撃を加えないこと。

保管：

技術的対策： 保管場所は消防法危険物第4類第2石油類を貯蔵し、取り扱うに必要な設備（耐火構造、防爆構造等）を設ける。

混触禁止物質： 強酸類、酸化性物質

適切な保管条件： 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。

危険物の表示をして保管する。

熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。

避けるべき保管条件： 強酸類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料： 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 1000ppm（LPGとして）

許容濃度： 日本産業衛生学会（2011年度版）最大許容濃度

200ppm（ノナンとして）

500ppm（ブタンとして）

ACGIH TLV-TWA

200ppm（ノナンとして）

800ppm（ブタンとして）

設備対策： 静電気に対する予防措置を講ずること。空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気装置を設ける。

呼吸器の保護具： 適切な呼吸保護具を着用すること。

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具： 適切な保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具： 適切な保護具を着用すること。

衛生対策： 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

形状： 液体（エアゾール）

色： 無色透明

臭い： 特徴的な臭気（溶剤臭）

pH： データなし

融点、凝固点： データなし

沸点、初留点及び沸点範囲： 147℃～250℃

引火点： 0℃以下（エアゾールとして）

爆発範囲： 1. 1～9. 2 vol%（エアゾールとして）

蒸気圧： 0. 3 Mpa（20℃）（エアゾールとして）

蒸気密度（空気＝1）： 空気より重い

密度： 0. 67 g/cm³（エアゾールとして）

溶解度： 有機溶剤に可溶、水に不溶

n-オクタン/水分配係数： データなし

自然発火温度： 300℃以上（エアゾールとして）

分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の状態では安定。

危険有害反応可能性： 強酸化剤、強過酸化剤との接触を避ける。発火、爆発の恐れがある。

避けるべき条件： 高温

混触危険物質： 強酸化剤

危険有害な分解生成物： 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性： 経口 LD₅₀ >15000 mg/kg

区分外

経皮 LD₅₀ >3160 mg/kg

区分外

その他 現在のところ有用なデータなし

皮膚腐食性、刺激性： 長期間皮膚に暴露すると皮膚に中程度の刺激を与えることから区分3とした。
眼に対する重篤な

損傷、刺激性： 目に短時間不快感を及ぼす恐れがあることから区分2Bとした。

呼吸器感作性

又は皮膚感作性： データなし

生殖細胞変異原性： データなし

発がん性： データなし

生殖毒性： データなし

定標的臓器、全身毒性： 炭化水素溶剤としてのデータは無いが、LPGには気道刺激性および麻酔作用があることから区分3とした。

（単回ばく露）

特定標的臓器、全身毒性： データなし

（反復ばく露）

吸引呼吸器有害性： 炭化水素であって、40℃の動粘度が20.5mm²/s以下である炭化水素溶剤を多量に含有しているため区分1とした。

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性： データなし

水生環境慢性有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

容器及び包装： 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

1 4. 輸送上の注意

国内規制： 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上： 消防法： 危険物第4類第2石油類 非水溶性 危険物等級Ⅲ

海上： 船舶安全法の規定に従う。

航空： 航空法の規定に従う。

国連番号： 1950

品名： エアゾール

国連分類： 2.1

輸送の特定の

安全対策及び条件： 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないよう積載すること。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

1 5. 適用法令

安衛法： 名称等を表示すべき有害物（施行令第18条）

非該当

名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

政令番号 第432号 ノナン（炭化水素溶剤に含有）

政令番号 第482号 ブタン（LPGに含有）

有機溶剤中毒予防規則

非該当

消防法： 危険物第4類第2石油類 非水溶性

廃棄物の処理及び

清掃に関する法律： 産業廃棄物規則（拡散・流出の禁止）

PRT法： 非該当

1 6. その他の情報（引用文献等）

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHSモデルMSDS 他

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。